

令和2年度 学校評価書(総合)

伊井小学校

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数(%)	R2 前期 (%)	R2 後期 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	1 基礎基本と活用する力の向上	①主体的な学びの視点に立つ授業改善	子どもたちが授業に主体的に取り組むように努めた	教職員	90	100	100	○どの学年もICTを効果的に活用し、児童の理解を深めていた。 ○自分の考えを深めたり、みんなの考えをつなげたりする場面を入れることを意識し、単元の中に組み入れるようにした。	・iPadが一入一導導入されたことで、今年度以上に活用の幅が広がる。教員の研修を行い、有効な活用を図っていききたい。 ・主体的な学習として、調べ学習、単元のまとめプレゼンづくり、友達への問題づくりなどがあげられるが、いろいろな使い方を研究していききたい。 ・国語で学習した話し合い活動を応用して、他の教科でも実践し、筋道を立てて説明する力を高める。	・教師とのコミュニケーションや他校との交流などでICTの活用を図ると良い。 ・児童によって個人差があるので、今後も個々に合わせて指導をお願いしたい。 ・わかる授業になるよう工夫されていて有り難く思う。学習ができないと不登校の要因になる。
			授業に主体的に取り組んだ	児童	90	100	99	△コロナ禍の中、授業を進めることを最優先にしたため、教科によっては、まとめや調べ学習中心になったものもあった。		
			学校は子どもたちが授業に主体的に取り組めるよう工夫している	保護者	90	96	97	△一斉授業の中にも、子どもが主体的に学習する場面、時間をかけて考察する場面を意図的に取り入れていくことが大切。		
		②わかる授業・魅力ある授業の創造	わかる授業に努めた	教職員	90	100	100	○個のニーズに応じ、休み時間等に個別指導を行っていた。 ○学力向上週間は、とても良い取り組みなので継続すると良い。 ○月1回、学力テストを実施することによって基礎的な力がついてきていると思う。	・今年度の取り組みを継続していく。 ・プレテストを行う時間が少ないため、現在と同じくテスト対策を十分に行い、テスト後の復習(再テスト)に力を注ぐ。個に応じ、合格点を考慮するなど、子どもたちのやる気を持続させていきたい。 ・校内学力テストの内容を変えていく。漢字・計算中心の方式を少しずつ変える。 ・校内学力テストは、家庭と連携を継続し、学力向上を目指す。	
			個のニーズに応じた指導を常に心がけた	教職員	90	100	100	△校内学力テストは、プレも行うと良いと思う。各クラスで行っていると思うが、プレー本番の向上が目に見えると励みになるのでは？(プレの点数も記入したらどうか)		
			日々の授業がわかった。	児童	90	99	99			
	③話し合う力の向上	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた	教職員	90	78△	100	○スピーチ集会で高学年の発表の様子や内容を聞いて、低学年は少し発表について意欲を高めたと思う。 ○発表の形式が、大型テレビに画像やプレゼン資料を映し出した上で、質問形式で行うなど、工夫したスピーチになってきた。聞き手も、感想や質問をしっかりと発表できた。 ○コロナ禍の中でも、ペア、トリオで話し合う活動を取り入れるように努めた。声だけでは聞き取りにくいため、iPadやノートの資料を見せながら、相手に伝えるようにした。	・コロナ対策のため困難であった。感染症対策でペアワークが困難な分、来年度もICT活用を力を入れる。感染状況をみながら、少しずつペアワークにも取り組む。 ・コロナ対策のため会場を3つに分けてのスピーチ集会となったが、発表者が3回発表するうちに上手になってきたり、聞き手も感想や質問をする機会が増えたりと良い点が見られた。来年以降も、コロナ対策を行いながら、スピーチ集会を行っていききたい。	・スピーチ集会は、小さい学校ならではの。その利点を生かし、継続して欲しい。 ・中学校に行っても小学校でスピーチをした経験が生かされている。環境が変わっても堂々と発言できるのは、ありがたいことである。 ・スピーチ集会は、聴く力も伸ばしている。ぜひ続けて欲しい。	
		思考が深まるよう、指導を改善・工夫しようと常に心がけた	教職員	90	100	100	△話し合う力は、コロナの影響もありなかなか向上できていない。 △1月は、コロナ感染者が増え、感染予防を意識しながらの授業で、話し合い活動などはマスクをしているため、聞きにくく思うようにできなかった。			
		毎日の授業や生活の中での話し合い活動でよく発言できた	児童	90	77△	85△				
	④家庭学習のあり方の工夫(1~3年30分4年以上学年×10分)	家庭での学習の指導を継続的に行った。	教職員	80	100	100	○保護者からの評価が高いのは、学校での取り組みが理解されている証拠だろう。 △子どもたちの数値が下がっているのが気になる。ゲームや、youtube鑑賞などで時間がないのかもしれない。実態を調査して行く必要がある。	・定期的にゲームやタブレット等の使用時間を調査し、適切に家庭学習できるように指導していく。 ・家庭にスマートルールを定着させるために、学校で、保護者向けにスマートフォンやゲームに関する講演会を開く。	・自学のやり方が分かると良い。保護者の目が向けられると良い。褒めることが大切で続けていければ良い。 ・勉強にも得手、不得手がある。個人差が大きい。嫌々行ってもだめな気がするが、反復も大切。難しいところだ。先生方の苦労もわかる。 ・宿題は、家庭学習の習慣づけ。質も大事だが、量も大切なこともある。 ・塾での学習時間も、家庭学習の時間に含まれる。 ・児童の81%達成は、素晴らしい。70%達成でも素晴らしいことである。自学などをやって当たり前だと思っはいけない。褒めて伸ばす姿勢を保護者ももつべきである。	
		家庭での設定した学習時間を達成できた。(週4日以上)	児童	80	93	81				
		子どもたちは設定時間、家庭学習に取り組んでいた。	保護者	80	77△	85				
2 読書習慣の育成	⑤読書に親しむための取組	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。	教職員	80	100	100	○机の手さげ袋の中に常に本を用意させ、空き時間に取り出して読めるようにした。 ○家庭読書のコメントを紹介したり、読書カードを持ち帰って、コメントをいただいたりして、少しずつ効果が現れてきた。	・読書貯金を活用して、家庭との連携をはかる。 ・定期的に読書への呼びかけを行う。 ・読書貯金をグラフなどを使って視覚的に表し、読書への関心を高める。 ・読み聞かせや本の紹介を児童同士で行うことで、読書への関心を高める。	・保護者から、呼びかけていくと良い。 ・児童の80%達成は、素晴らしい。家庭では、習い事などで子ども忙しい。4.4%でも十分だと思う。緩やかに伸びていけばよいのではないかと。子どものプレッシャーにならないように、次は50%を目指していこう。 ・保護者が、「今、どんな本を読んでいるの?」「学校で読んだ本は、どんな内容だった?」など、聞くことで、子ども連も意欲的に読書に向かうかもしれない。	
		読書に継続的に取り組むことができた。	児童	80	80	80	△学校では読書の好きな児童が多く、多くの本を読んでいる。家庭では読書時間が少ないため、保護者の評価が低いのではないかと。			
		家庭において、読書について話題にあげたり、読書の時間を設けたりする機会を持った。	保護者	80	39△	44△				

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数(%)	R2 前期 (%)	R2 後期 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
豊かな心	1 思いやりの心の育成	⑥挨拶の習慣化推進	児童に対してしっかり挨拶し、謝罪・感謝の言葉を交わす指導を行った。	教職員	90	100	100	○挨拶の重要性を常に指導し、生活体育委員会の取り組みもあったので、去年より児童が自分から進んで挨拶をするようになった。 △挨拶については、以前よりアイコンタクトをとって挨拶できる子が増えてきた。さらに、自分から先にできると良い。	・保護者へ挨拶の大切さ、大人が見本を見せることの大切さを啓発する。(お便り、PTA総会、保護者会等) ・毎朝の健康観察の時に「朝、自分から挨拶ができたか」を聞く。	・コロナ禍だから仕方ないが、挨拶で大きな声が出せない、内弁慶かなと思う。大きな声で挨拶が帰ってくる、大人も嬉しい。 ・大声を出せない子は、ハイタッチでも何でも良く、コミュニケーションがとれれば良い。 ・挨拶をしても、下を向いている子がいるのは、心配である。学校で様子を見て欲しい。 ・大人が率先して、挨拶すべきである。	
			「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」等の挨拶を自分から行った。	児童	90	97	97				
			子どもたちは自分から「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」などの挨拶をしていた。	保護者	90	85△	86△				
		⑦みんなで取り組む活動の工夫	グループ活動やふれあい班活動に意欲的に取り組むよう努めている	教職員	90	89△	100	○縦割り班での活動は少なかったが、できる範囲で工夫して活動できた。 ○掃除の時間に高学年が低学年に掃除の仕方を優しく教える姿が見られた。	・コロナ対策を講じながら、ふれあい班活動を充実させる。		
			友だちやふれあい班活動に意欲的に取り組んでいる	児童	90	99	99				
			相手を思いやり親切にする指導を継続して行った	教職員	90	100	100				
	⑧思いやりの心	相手を思いやり親切にしている	児童	90	94	100	○「あったかサントツリー」に全員参加した。 ○子どもたちの行動やつぶやきに注意し、良い行いは褒め、誰かがいやな思いをするようなことがあれば、その都度指導することを心がけた。 △時々、自己中心的で友達に迷惑がかかる言動が見られることがあった。その都度、個別に振り返りをさせたり、全体指導をしたりした。	・コロナ禍でも取り組めるSSTを考え、実践する。 ・道徳の時間、思いやりや親切について取りあげ、道徳的心情が深まるよう指導を工夫する。	・「あったかサントツリー」は、上の子が下の子に優しくする取り組みなので今後も継続して欲しい。 ・大規模校で大人数で揉まれることも大事だが、幼いうちは少数数学校の良さを生かし、優しい心を育てていきたい。 ・こども園に、6年生を早く招待できるようになると良い。		
		子どもたちは相手を思いやり、親切にしている	保護者	90	87△	89△					
		学校生活が楽しくなるよう努めている	教職員	90	100	100					
	2 いじめ不登校の防止	⑨楽しい学校生活	学校に来るのが楽しい	児童	90	93	100	○毎日、学校に来るのが楽しいと回答する児童が100%となった。学習や対人関係で心配なことがあっても、それを乗り切る力が付いてきており、友達や家庭、教職員の支えがあるからだと考える。		・生活目標の振り返りの放送を継続する。	県の施策である「魅力ある学校づくり」について ・新たな不登校を増やさないための予防策をとって欲しい。 ・いじめがなく安心して学校に来られるような対策、居場所づくりをして欲しい。 ・後期、児童の結果が100%とはとても素晴らしい、嬉しいことだ。
			子どもたちは学校へ行くのが楽しいと思っている	保護者	90	89△	96				
			児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100				
⑩児童理解		自尊感情を高める指導に努めた。	教職員	90	100	100	○ハートふれあい週間で面談することは、児童を理解する上で役立った。 ○木曜日の終礼の後に児童の情報を共有することは、児童理解に役立った。	・常にすべての児童の情報をすべての教員が共有し、課題をもった児童に対応できるようにする。 ・善い行動やがんばりが見られたとき、すかさず賞賛する。			
		学校の先生は、自分の話を聞いてくれる。	児童	100	100	100					
		学校では、子どもの相談に応じたり、「ハートふれあい週間」による面談等で、児童理解に努めている。	保護者	100	93△	99△					
									・スクールカウンセラー（SC）と保護者が話す場合、ハードルが高い。 ・何を相談したら良いか悩む、こんなことで相談したらおかしいかなと思う子がいるのでは。 ・担任に言えないこともあるので、他の教師と相談できる機会もあると良い。 ・教師間連携を続けて欲しい。 ・先生方が、子どもの話をしっかりと聞いてくれていて、ありがたい。先生方のおかげである。継続して欲しい。		

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数(%)	R2 前期 (%)	R2 後期 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体	1 望ましい生活習慣の育成	⑪早寝・早起き・朝ごはんの指導	早寝・早起き・朝ごはんの指導を継続して行う	教職員	90	100	100	○規則正しい生活の重要性を常に指導した。 △感染症拡大防止に関する指導時間が多くなってしまった。そのため、生活指導にかける時間が短くなったのかもしれない。	・「早寝」については、学校で指導しても改善されることが少ないため、家庭との連携を図る必要がある。 ・なぜ規則正しい生活が大切なのか児童に継続的に指導していく。	・タイムスケジュールの組み方を学ぶのも大切なことである。学習時間が先の子や後回しになる子がいってもよい。しっかりと、自分で予定を立てて、それを守ることができる子を育てていくことも大切。その中で、規則正しい生活も送れるのではないだろうか。
			早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組む	児童	80	97	100			
			子どもたちは早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組んでいる	保護者	80	94	90			
	2 主体的に取り組む運動習慣の育成	⑫主体的に取り組む運動習慣の育成	授業や業間体育での記録の伸びるよう励ましながら指導した。	教職員	90		100	○例年とは違うやり方で、マラソン、なわとび大会を実施したが、子どもたちにとって目標となる大会があるので、意欲につながっている。 ○給食前の手洗い、食事中のマナーは大変よい。 ○集団登校では話をせず、安全に気をつけて歩いている。 △なわとび目標達成のために、クラスでスモールステップ目標を立て、シール等で可視化し意欲向上に努めたが、進んで練習する子は少ない学年もあった。	・業間なわとびの際に、音楽を流してなわとびへの意欲を高める。 ・なわとびカードを活用し、児童の練習量や到達点を可視化し、児童の向上心を高める。	
			授業や業間体育で記録が伸びるよう努めた	児童	90		93			
			学校は、子どもたちがめあてを持って体力向上に取り組めるよう努めている	保護者	90	99	100			
	3 安全教育の推進	⑬安全教育の推進	安全に気をつけて生活するよう継続的に指導する	教職員	90	100	100	○廊下を走らないよう継続して指導したい。 △教室内を走っている児童も見られるので、継続的に指導していきたい。 △廊下を走る子がいる。「やり直し」の声を徹底して、廊下を走らないことを強く意識させたい。 △手洗いが粗そうな子、大声で話す子が多いので、適宜指導する必要がある。	・なぜ廊下を走ると危険なのかを理解させた上で、走る児童には、何度もやり直しを徹底させる。 ・学年で手洗いの指導を定期的に行う。 ・手洗い場やトイレに行き、児童の様子を確認する。	・自分で判断する力をつけなければならぬ。 ・地区の防災訓練に子どもたちも参加できると良い(新郷地区は実施) ・避難訓練は、不意に実施することが大切。子どもより、大人の方が困ってしまう。危機回避の力、自分の身を守る力は、繰り返しの訓練で身につけている。 ・防災教育として、「こんな時には、こんなことができる」という、知識が必要。保護者も知らないことも多い。親に教えてあげられるようになるとよい。
			安全に気をつけて生活する	児童	90	92	98			
			子どもたちは安全に気をつけて生活していると思う	保護者	90	97	99			
家庭・学校・地域の連携	1 家庭・地域と連携した教育活動推進	⑭スマートルール推進	スマートルールをもとに指導している。	教職員	80	100	100	○高学年でひまわり教室を開き、SNSの使い方について学んだ。 ○県から発行されるネットに関するおたよりについて必ずコメントをつけて配布した。 ・スマートルール、県からの資料をただ配布せず、その都度指導していくことの徹底。 ・アンケート結果を保護者に伝え、家庭での改善策を考えてもらう。 ・来年度もひまわり教室を開く。(中・高学年)	・小学生でもオンラインゲームをする時代。慣れにくくと怖い。 ・ネットの情報を鵜呑みにしがち(嘘の情報もある) 良い方向に使うということを指導して欲しい → 家庭の協力が必須。	
			TV、ゲーム、インターネットはルールを守って、見たり使ったりしている。	児童	80	76 △	85			
			家庭のルールをつくり、守るよう取り組んでいる。	保護者	80	83	83			
	2 ふるさと学習・地域教育力の活用推進	⑮学習や生活の様子の伝えるための工夫	お便りやホームページなどを通して学習や生活の様子を伝えている。	教職員	90	100	100	○各学年おたよりや学校だより、連絡帳、伊井っ子ランド(ブログ)を通して、日々、学校の様子を伝えた。 ・今年度の取り組みを継続をする。	・学校だよりの6年生の作文コーナーを読み、「リーダー」としての自覚が見られ、頼もしく感じた。また、新聞に4年生の作文が載っているのを感じ、嬉しく感じる。 ・コロナ禍の中、先生方の工夫で良い環境の中、子ども達が育っている。感染させてはいけないが子どもの活動も保証してやりたいという、先生方のご苦労がよくわかりありがたく感じている。	
			お便りやホームページなどを通して子どもたちの学習や生活の様子がわかる。	保護者	90	92	92			
			地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	教職員	90	56 △	100			
⑯地域との連携	地域の行事に参加したり、地域の人とふれあったりすることは楽しい。	児童	90	99	99	○人材リストを作成した。 ○感謝の会はできなかったが、サポート会の方々への感謝の手紙を書き(4~6年)、渡したことで喜んでいただけたと思う。 ○クラブを開始し、校外学習に行けるようになり、地域の教育資源や人材を活用できるようになった。 ○5年生の発表で、伊井地区の良いところを発信でき、よかった。 ○校歌について調べ、地域の掲示をすることで、伊井地区を見つめ直すことができた。 ・今年度の取り組みを継続をする。				
	学校は、地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	保護者	90	90	93					